



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	3月31日
期末配当金基準日	3月31日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話：0120-232-711(フリーダイヤル)

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
  - 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
  - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待新設のご案内

株主の皆様からの日頃のご支援への感謝として、株主優待制度を新設いたしました。

株主優待の内容

対象株主	毎年基準日(3月31日)現在で当社株式1単元(1,000株)以上所有の株主様
優待の内容	5,000円相当の当社製品(缶詰セット)を贈呈いたします。
贈呈時期	毎年7月にお送りする予定です。
実施開始時期	2009年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された対象株主様より開始いたします。

いつも となりに  
おいしいキョクヨー



WEBサイトのご案内



財務情報をはじめとしたIR情報や会社案内のほか、キョクヨーグループ最新の情報を掲載しています。また、皆様のご意見やご質問をお受けする「お問い合わせ入力フォーム」もご用意しております。ぜひご利用ください。

<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

検索



株式会社 極 洋  
〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号



# Business Report

第86期 報告書 2008年4月1日 - 2009年3月31日

## 企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

## ご挨拶

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、第86期(2009年3月期)報告書をお届け致します。キョクヨーグループは水産物を中心とした総合食品企業を目指し、グローバル戦略と加工戦略を駆使してより一層の安定収益確保を図ってまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月 代表取締役社長 福井 清計

## グループの4事業を柱に それぞれの強みを活用し 収益の確保を図ります。

**Q 当期(2009年3月期)の概況についてお聞かせください。世界同時不況の影響はいかがでしたか。**

上半期は、水産商事事業については水産物市況の堅調な推移に支えられ好調をキープしました。また、加工食品事業においても価格改定の実施や国内外での関係会社工場での製品の生産・販売増に伴い収益率アップを実現しました。さらに、物流サービス事業では世界的に堅調な海運市況の中で効率的な配船に努めた結果、燃油価格の上昇を吸収出来、また鰹・鮪事業でも海外まき網船で漁獲したかつおの魚価が堅調であったことにより、連結で過去最高の営業利益を達成しました。

ところが、下半期はアメリカの金融不安に端を発した100年に1度と言われる世界的経済危機の波が押し寄せ、為替の急激な円高傾向や、国内景気の停滞による消費不振が水産物や食品価格の下落を引き起こしました。これにより収益率の低下を余儀なくされ、上半期の貯金を下半期で使い果たす結果となり、上半期と下半期とでは明暗を分けた激動の1年間であったと思います。

以上の結果、キョクヨーグループ全体では売上はほぼ前年度並みを確保し、利益は前年度を若干上回る結果となりました。

**Q 当期特に注力された取組みについてお聞かせください。**

グローバル戦略、加工戦略の推進を基本としながら、さらに鰹・鮪事業を水産商事・加工食品事業に次ぐ柱にするべく取組みました。

水産商事事業では、国内各支社・営業所、そして海外関係会社や駐在員事務所が連携した極洋のグローバルネットワークを駆使して世界各地から良質な水産物を調達するとともに、国内外の協力工場で様々なニーズに沿って生産された水産加工品の販売に注力しました。

加工食品事業では、タイの合弁会社K&U Enterprise Co., Ltd.(以下KUE社)において寿司関連商材の生産増強を図り、日本向けの寿司種だけでなく欧米向けの冷凍寿司と寿司種の製品開発、拡販に注力しました。

また新製品については、国産志向の要望から国内の関係会社工場で製造された商品を数多く開発し、医療・福祉給食向けの商品についても引き続き取組みを進めラインナップを拡充しました。

さらに昨年9月、海産物珍味の加工及び販売を営む(株)ジョッキの株式を追加取得し連結子会社化しました。同社との連携強化を通じて新製品の共同開発や販路拡張等で事業拡大を図ってまいります。

鰹・鮪事業では、極洋水産(株)所有の海外まき網船が試験操業のための新船建造の認可を受け、昨年11月起工式を済ませ今年9月竣工の予定です。この新船は、国



際競争力ある1,200トンの漁獲物搭載可能な大型船で、最新鋭の設備により漁獲効率のアップが図られ、また燃費の改善により環境負荷に配慮しております。また、資源保護の観点から小型魚の混獲回避の調査も併せて行います。

また、水産資源へのアクセスの一環として一昨年設立した本まぐろ養殖のキョクヨーマリンファーム(株)では、2年目の活け入れが完了し、今年10月に初出荷を予定しています。これまでの冷凍品に加え生鮮品としての供給が可能となります。

心に足元を固め、中期長期的には海外戦略、M&A戦略も視野に積極的な取組みを行ってまいります。

さらに、環境の激変にも耐えることが出来る財務体質を維持強化するために、自己資本比率の向上、有利子負債やリスク資産の削減に取組み企業価値向上に努めてまいります。

## 次期中期経営計画『キョクヨーグループ チャレンジ2012』を発表されましたが。

当社が第1回目の3か年中期経営計画を策定してから今年でちょうど10年が経過し、進行途上での修正計画も含めると今回で5回目の策定となります。当社グループ全体が一丸となって目標に向けて挑戦するという姿勢を明確にするため『キョクヨーグループ チャレンジ2012』と名付け、心機一転の気概と社内外へのアピールを重視して新年度がスタートする直前の3月31日公表しました。今回は、今まで経験したことがない景気後退の時期と重なり目標設定には苦労しました。

基本方針は、今後も4つの事業セグメント(水産商事、加工食品、物流サービス、鯉・鮪)を柱に当社グループの有する独自性・優位性を一層強化して既存事業の収益安定を確固たるものにすることです。また、成長の期待される関連分野へも積極的な姿勢で取組むことを明確にしました。

現在の厳しい経済状況は国内外とも短期間での自律回復は難しいと言わざるを得ません。短期的には内需中

## 消費者的安心・安全な商品提供の要望がさらに高まっていますが。

ここ2、3年、国内食品業界においては安心・安全に係わる事件や不祥事が相次いで発生しました。

当社は従来より国内外の協力工場と綿密な連携や情報交換を頻繁に行い、中国、タイ、ベトナムなどの駐在員事務所に品質管理専任スタッフを配置、また本社品質保証部を中心とした国内外の協力工場を交えた品質管理の研修や講習会を適宜実施し、万全の品質管理体制を構築してまいりました。

昨年1月中国で発生した餃子事件以降は、主要工場に監視カメラの増設等、製造ラインの管理を強化しました。また、農薬も含めた薬品管理の徹底及び、異物混入対策を十分に行うなど日本と同等の品質管理基準で管理を行っています。加えて今年4月からは、中国青島駐在員事務所に中国食品安全管理室を設置し、中国の協力工場で生産される当社製品の安全と品質管理強化を図っております。

## 来期の見通しについてお聞かせください。

来期は、『キョクヨーグループ チャレンジ2012』の初年度に当たる訳ですが、先程お話しした通り4つの事業セグメントを中核として安定収益確保に注力してまいります。

水産商事事業には、水産のプロとしてのノウハウと国内外の仕入先との連携を強化して安定した水産物の調達を図り、日本国内はもとより北米、欧州、東南アジア等へ販売を拡大させ、高付加価値製品の取扱い強化

にも取り組んでまいります。

加工食品事業においては、国産志向に対応した国内関係会社工場の生産体制の強化を図り、また海外では寿司関連商材の供給強化のためKUE社の工場設備の更新・増強を進め、中国、タイ、ベトナムでの生産体制の充実を図ってまいります。さらに当社の強みである寿司・刺身商材についても、製品のラインナップ拡充と新製品の開発に努めてまいります。

以上のように消費者のニーズに沿った商品の開発を進め、徹底した品質管理体制の下、安心・安全な商品を未開拓販路の積極的開拓にも注力しつつ、拡販を図ってまいります。

物流サービス事業では、冷蔵倉庫事業において貨物の積極的集荷、冷蔵運搬船事業では基本船隊の維持・確保により効率的に運営してまいります。

鯉・鮪事業は、水産資源へのアクセスを重視し、本まぐろ養殖事業の拡大や海外まき網事業を増強してまいります。また、極洋水産(株)大井川工場の生産体制強化を図ることで高度な加工品生産を実現し、キョクヨーマリンファーム(株)の生鮮商品も含む製品の販売力強化を目指してまいります。

以上により、次期の連結業績は売上1,600億円、営業利益34億円、経常利益33億円、当期純利益18億円を見込んでおります。

### 「キョクヨーグループ チャレンジ2012」数値目標

中期的な連結経営指標として、  
**自己資本利益率(ROE) 10%**  
**自己資本比率 30%** を目標とします。  
 3年目の最終年度(2012年3月期)全体及びセグメント別計画数値は下記の通りです。

	2008年度(2009年3月期)		2011年度(2012年3月期)	
	実績		最終年度	
売上高	1,475		1,770	
営業利益	29.8		42.5	
経常利益	28.7		40	

セグメント	2008年度(2009年3月期)		2011年度(2012年3月期)	
	実績		最終年度	
水産商事	687	8.7	800	15
加工食品	542	10.5	690	18
物流サービス	62	5.2	59	4
鯉・鮪	183	8.8	220	11
その他・本部調整	1	△3.4	1	△5.5
合計	1,475	29.8	1,770	42.5

公表した開示資料はホームページでご覧いただけます。  
<http://www.kyokuyo.co.jp/ir/pdf/challenge2012.pdf>

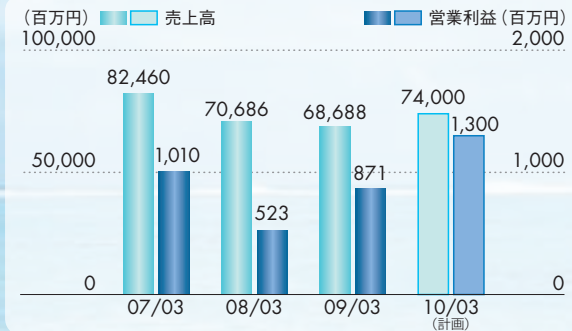
### 水産商事事業

売上高構成比  
**46.6%**

海外現地法人と駐在員事務所のネットワークを駆使し、また海外取引先との信頼関係の下で最新の産地情報等を把握しています。そして永年培われた水産物を見る確かな目で良質な魚介類を買い付け、国内各卸売市場をはじめとする得意先様に安定的に提供する一方、国内外の協力工場へ加工原料として供給しています。また、日本国内で漁獲された魚介類の欧米やアジアなどへの輸出や三国間貿易など海外への販売も積極的に行い、魚食のグローバル化にも対応していきます。



2009年モンドセレクション金賞を受賞した「スモークサーモン」



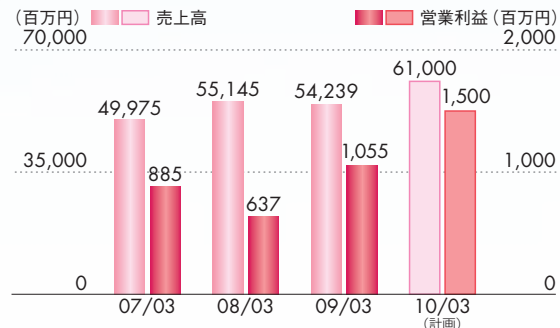
### 加工食品事業

加工食品事業は水産冷凍食品・調理冷凍食品・常温食品の3事業を展開し、水産物や畜産品等、様々な食材をニーズに合わせて加工しお客様に提供しています。水産冷凍食品事業は、寿司種や水産切身などを回転寿司店や量販店・レストラン向けに販売しています。

調理冷凍食品事業は、水産フライ類やかに風味かまぼこをはじめ畜肉製品、冷凍野菜、冷凍和菓子などを量販店の惣菜売場や外食産業および学校給食向けに販売しています。また、女子栄養大学との産学連携による医療福祉給食向け製品の開発にも力を注いでいます。

売上高構成比  
**36.8%**

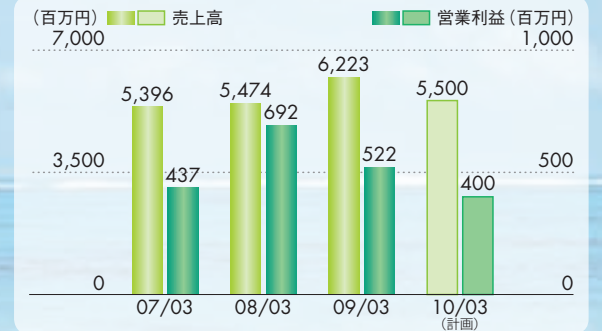
常温食品事業は50年以上の歴史を持つツナやサケなどの魚介缶詰や、「グルコサミン」といった健康食品を皆様にお届けしています。



### 物流サービス事業

売上高構成比  
**4.2%**

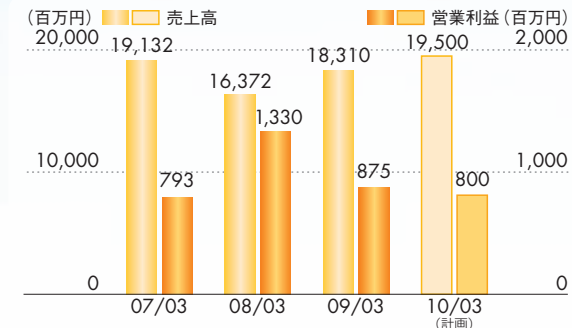
物流サービス事業は、キョクヨー秋津冷蔵(株)において冷蔵倉庫事業を運営し、東京(大井)・大阪・福岡で迅速なサービスを展開しています。また海運事業を担う極洋海運(株)では、冷蔵運搬船が世界の海を駆け巡り、果物、野菜、畜肉類を輸送しています。



### 鯉・鮪事業

極洋では良質のかつお・まぐろの漁獲、生産から加工、販売まで一貫した事業を展開しています。極洋水産(株)では最新の設備を備えた海外まき網船4隻で、中西部太平洋および東沖において主にかつおを漁獲しています。世界各地からの買付品や、極洋水産(株)大井川工場および国内外の協力工場で作成した付加価値を高めた加工品をお客様にお届けしています。

売上高構成比  
**12.4%**



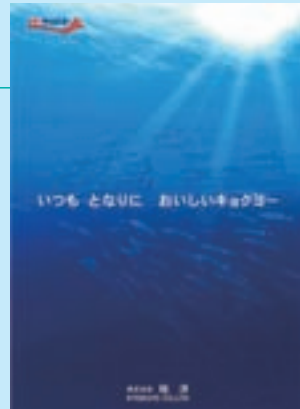
## 第7わかば丸建造開始

2008年7月、試験操業のための海外まき網船建造許可を取得し、「第8わかば丸」の代船として、試験操業船「第7わかば丸」の建造を始めました。

「第7わかば丸」は総トン数760トン型、積荷1,200トンの規模で2009年9月に竣工の予定です。

### 試験操業の目的

- 国際競争力を有する大型化
- 燃費効率向上
- 小型魚混獲回避の調査研究



## 新キャッチコピー決定

2009年1月、当社のキャッチコピーを5年ぶりに一新いたしました。

### 新キャッチコピー

**「いつも となりに おいしいキョクヨー」**

今後とも、新キャッチコピーを広く浸透させ、当社の更なるイメージ向上に役立てていきます。

## (株)ジョッキ子会社化

2008年9月、海産物珍味の加工および販売を営む(株)ジョッキを当社の連結子会社といたしました。

今後は当社グループとして協同で原料調達や商品開発などを進め、お互いの経営資源の有効活用によるシナジー効果を最大限発揮し、更なる企業価値向上を目指してまいります。

なお、同社製品は主に大手コンビニエンスストアなどで販売されています。



## 社会・環境報告書2008発刊

2008年9月、「極洋グループ 社会・環境報告書2008」を発行しました。これは、2001年12月以来、当社グループが取り組んでいる環境保全活動の成果や社会的活動を盛り込んだもので、2007年に続き2回目の発行です。同報告書は当社グループが社内・外と対話する際に企業としての思いや実際の取り組みなどを伝え、広くコミュニケーションするためのツールとしての役割を担っています。今後とも、当社グループ環境経営の更なる充実を図り、社会からの信頼と期待に応えられるよう努力を続けてまいります。

※当報告書の内容は当社ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.kyokuyo.co.jp/enviroment/>



## 本まぐろ養殖状況

高知県宿毛市に2007年7月設立したキョクヨーマリンファーム(株)での本まぐろ養殖事業は、操業2年目の2008年は稚魚1万尾の活け入れが完了し、順調に成育中です。

2009年秋には、初出荷が予定されています。養殖事業の本格化により、これまでの冷凍品に加え、生鮮品の供給も可能となり、当社鯉・鮪事業の川上から川下までの一貫体制構築に大きな強みになると期待されます。



## 寿司関連商材の更なる拡販を図る

水産冷凍食品の主力製品である寿司関連商材は、引き続き販路拡大に努めています。

タイのKUE社で生産する寿司種や冷凍寿司はアイテム充実と強化を図り、国内のみならず欧米向けに販路を拡大しています。

また、三陸産養殖銀鮭やサボテンヒラメ\*の「姿美人」シリーズや「味付けやりのいかめかぶ」などの新製品を次々に投入し、お客様からご好評をいただいております。

\*サボテンの実のエキスを餌に混ぜることで、養殖魚特有の臭みを抑えています。



当社グループが販売している商品の一部をご紹介します。  
当社商品は業務用が中心ですが、常温食品など一部は市販用としてお買い求めいただけます。



水産加工品

**ブラックタイガー & バナメイえび “ぷりぷり” シリーズ**

鮮度の良いブラックタイガー・バナメイえびを調理しやすい様に、殻、背わたを取り除きむきえびにしました。ぷりぷりとしたえびの食感をお楽しみいただけます。

**寿司種各種**

水産冷凍食品

寿司種はタイのKUE社を生産拠点の一つに、えび、イカ、サーモンなど新鮮な原料を使用し、そのまま流水・自然解凍するだけで本格的な寿司種になります。また、豊富な商品群は彩りもよく、さまざまな商品を組み合わせただけで豪華な寿司盛を演出できます。



調理冷凍食品

**とろ〜りクリーミーフライ(かに、えび、コーン)**

宮城県蔵王産の搾りたて牛乳を使用したホワイトソースにそれぞれの素材の旨味をぎゅ〜り詰めました。サクミある食感の焙焼パン粉で剣立ちの良い衣に仕上げました。極洋食品(株)本社工場が生産しています。

常温食品

**スイートコーン ホール(テトラリカルト容器)**

様々な食シーンで活躍するスイートコーンを砂糖不使用で水煮にしました。また、この商品には加圧・加熱殺菌のできる紙容器を使用しています。手で簡単に開けられ、使い残しはそのまま冷蔵庫で保存できます。



鯉・鮪製品

**本鮪炙り炭焼**

近海で漁獲された天然の本鮪を1300度の炭火でその表面だけを香ばしく焼き上げました。



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2009年3月31日現在	前連結会計年度 2008年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	43,752	41,050
固定資産	17,432	16,323
有形固定資産	10,231	8,777
無形固定資産	683	497
投資その他の資産	6,517	7,048
資産合計	61,184	57,373
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	37,594	35,105
固定負債	5,747	4,504
負債合計	43,341	39,610
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	17,839	16,874
評価・換算差額等	△304	638
少数株主持分	307	250
純資産合計	17,842	17,762
負債純資産合計	61,184	57,373

連結貸借対照表のポイント

- 流動資産** (前期比27億円増加)
  - 「売掛金」や「棚卸資産」の増加などにより前期末比27億円増加しました。
- 固定資産** (前期比11億円増加)
  - (株)ジョッキの連結子会社化及び海外まき網船建造などによる「有形固定資産」の増加14億円、株価下落の影響が主な要因による「投資その他の資産」5億円の減少、などにより固定資産合計は11億円増加しました。
- 流動負債** (前期比24億円増加)
  - 運転資金、連結子会社増などによる「短期借入金」の増加が主な要因により24億円増加しました。
- 固定負債** (前期比12億円増加)
  - 主に海外まき網船建造による「長期借入金」が7億円増加したことなどにより12億円増加しました。
- 純資産** (前期比0.8億円増加)
  - 当期純利益の15億円に対して配当金の支払で5億円、「評価・換算差額等」は9億円、自己株式の取得1億円などの減少要因により、純資産は小幅な増加に留まりました。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	5,664	749	10,981	△521	16,874	553	△10	95	638	250	17,762
当期変動額											
剰余金の配当			△531		△531						△531
当期純利益			1,587		1,587						1,587
自己株式の取得				△111	△111						△111
自己株式の処分		0		20	21						21
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△797	18	△164	△943	57	△886
当期変動額合計	—	0	1,055	△90	965	△797	18	△164	△943	57	79
当期末残高	5,664	749	12,037	△611	17,839	△244	8	△69	△304	307	17,842

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前連結会計年度 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	147,554	147,767
売上原価	129,849	130,488
売上総利益	17,704	17,279
販売費及び一般管理費	14,722	14,353
営業利益	2,981	2,926
営業外収益	410	443
営業外費用	519	528
経常利益	2,873	2,841
特別利益	25	13
特別損失	38	166
税金等調整前当期純利益	2,860	2,687
法人税、住民税及び事業税	1,553	1,428
法人税等調整額	△272	△169
少数株主損失(△)	△8	△68
当期純利益	1,587	1,497

連結損益計算書のポイント

- 営業利益** (前期比55百万円増加)
  - 売上高は前期比0.1%減少とほぼ前期並を確保しました。
  - 水産商事事業及び加工食品事業の営業利益は前期に比べ増加し、物流サービス事業、鯉・鯖事業は前期を下回りましたが、全体は前期を上回りました。
  - 営業利益率は2.0%で前期とほぼ同率でした。
- 経常利益** (前期比32百万円増加)
  - 支払利息の減少などの影響により、経常利益は前期を上回りました。
  - 経常利益率は1.9%で前期とほぼ同率でした。
- 当期純利益** (前期比90百万円増加)
  - 前期は貸倒引当金繰入額の発生がありましたが、今期は特記すべき特別利益、特別損失はなく、当期純利益は前期を上回りました。
  - 当期純利益率は1.1%で前期比若干好転しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前連結会計年度 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,346	9,288
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,202	△2,068
財務活動によるキャッシュ・フロー	799	△7,462
現金及び現金同等物に係る換算差額	△71	△10
現金及び現金同等物の増減額	870	△253
現金及び現金同等物の期首残高	2,836	3,090
現金及び現金同等物の期末残高	3,707	2,836

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フロー** (前期比69億円減少)
  - 税金等調整前当期純利益、減価償却費などを計上しましたが、売上債権の増加、法人税等の支払などにより23億円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー** (前期比1億円減少)
  - 固定資産及び子会社株式の取得による支出などにより、22億円の支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー** (前期比82億円増加)
  - 短期借入金の増加、長期借入の実施などにより7億円の収入となりました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当事業年度 2009年3月31日現在	前事業年度 2008年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	37,536	35,158
固定資産	11,972	11,707
有形固定資産	3,032	2,934
無形固定資産	489	467
投資その他の資産	8,450	8,305
資産合計	49,508	46,866
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	33,282	30,958
固定負債	2,882	2,233
負債合計	36,164	33,191
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	13,781	13,334
評価・換算差額等	△437	340
純資産合計	13,343	13,675
負債純資産合計	49,508	46,866

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当事業年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前事業年度 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	135,400	134,670
売上原価	120,990	120,805
売上総利益	14,410	13,865
販売費及び一般管理費	12,738	12,514
営業利益	1,671	1,350
営業外収益	488	608
営業外費用	406	457
経常利益	1,753	1,502
特別利益	1	3
特別損失	2	11
税引前当期純利益	1,752	1,494
法人税、住民税及び事業税	1,005	565
法人税等調整額	△320	△52
当期純利益	1,068	981

株主資本等変動計算書

当事業年度(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等			純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		その他 利益剰余金	資本剰余金 合計			資本剰余金 合計	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	5,208	7,441	△521	13,334	350	△10	340	13,675
当期変動額														
剰余金の配当							△531	△531		△531				△531
当期純利益							1,068	1,068		1,068				1,068
自己株式の取得									△111	△111				△111
自己株式の処分									20	21				21
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			0	0							△797	18	△778	△778
当期変動額合計			0	0			537	537	△90	446	△797	18	△778	△331
当期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	5,745	7,979	△611	13,781	△446	8	△437	13,343

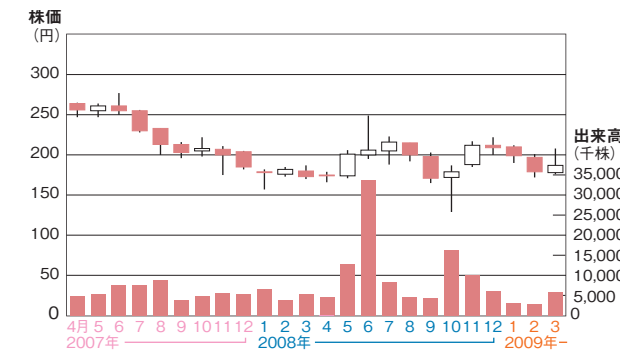
会社概要 2009年3月31日現在

社名	株式会社 極洋
英文社名	KYOKUYO CO., LTD.
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
設立	1937年9月3日
資本金	56億6千4百万円
主要な事業内容	水産物の輸出入・国内買付販売、 加工食品及び冷凍食品の製造販売
従業員数	2,682名(連結) 534名(個別)
連結対象会社数	16社
役員 (2009年5月31日現在)	代表取締役社長 福井清計 専務取締役 石川泰久 専務取締役 多田久樹 常務取締役 門田憲一 常務取締役 久保光太郎 常務取締役 今井賢司 取締役 須藤時廣 取締役 村上吉男 取締役 荒砥重誠 取締役 神保重徳 常勤監査役 菊田隆 常勤監査役 細川稔 監査役 向山洋治 監査役 細谷理

株式の概況 2009年3月31日現在

発行可能株式総数	437,000,000株	
発行済株式の総数	109,282,837株	
株主数	13,830名	
大株主	株主名	持株数(千株) 出資比率(%)
	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	10,237 9.36
	三井住友海上火災保険(株)	5,701 5.21
	(株)りそな銀行	5,234 4.78
	農林中央金庫	4,450 4.07
	東洋製罐(株)	3,150 2.88
	日本マスタートラスト信託銀行(株)	2,321 2.12
	東京海上日動火災保険(株)	2,245 2.05
	中央魚類(株)	1,399 1.28
	極洋秋津会	1,376 1.25
	三菱UFJ信託銀行(株)	1,309 1.19

株価及び出来高の推移



所有者別株式数分布状況

